

令和6年6月14日

保護者の皆様

長久手市教育委員会  
長久手市立北中学校

## 発達性ディスレクシア(読み書き障害)のスクリーニング検査の実施について

日頃より、保護者の皆様には、本市の教育に御理解と御協力をいただきありがとうございます。

長久手市では、今年度より、発達性ディスレクシアの早期対応を目指して、発達性ディスレクシアについて学ぶ専門的教員の育成を目指し、小中学校の一部の教員を対象に研修を行っています。

発達性ディスレクシアは学習障害の一つとされ、全体的な発達に遅れはありませんが、文字の読み書きに限定した困難があり、そのことによって学業不振が現れたり、二次的な学校不適応などが生じたりすることもあります。

そこで、下記の対象学年において、読み書きに関するスクリーニング検査等を実施し、発達性ディスレクシアへの早期対応を図り、読み書きの習得へつなげていきたいと考えます。

保護者の皆様には、御理解と御協力のほど、よろしくお願いいたします。

対象児童生徒 小学校1年生・中学校1年生

## 発達性ディスレクシアについて

文字の読み書きは学習の基本です。読み書きが苦手だと、国語の学習だけではなく、ほかの教科でも、教科書や黒板の文字を読んだり、ノートに書いたりすることに時間がかかるため、理解が追いつかないこともあります。

会話で不自由することはないため、周囲からは気づかれにくく、「努力が足りない」「真剣に取り組んでいない」と誤解を受けることがあります。そのため、ますます本人のやる気も低下していくという悪循環が生まれることもあります。

子どもにある困難さを正確に把握し、子どもの怠慢のせいにならないで、適切な支援を行うことが大事だと考えています。

※読み書きに関するスクリーニング検査にて、発達障害を診断することはありません。検査結果を、読み書きの苦手を測る目安にし、指導に生かしていきます。必要に応じて、保護者の方へお声をさせていただきます。

※お子様の発達で気になることがあれば、個別に御相談ください。

